

2024年度事業報告



①福祉相談事業

困りごと相談 (自主事業)

活動の想い
安心して暮らせる地域を作りたい！

直接の成果

悩みや困りごとを抱えた人が相談をする。

【担当責任者】 法人全体

【活動概要】

暮らしにかかわる相談を法人全体として相談者の気持ちに寄り添う傾聴を中心に実施する。必要により関係機関への紹介を行います。

短期成果

必要な時に相談できる関係ができる。

【活動実績・得られた成果】

ケアマネ・障害者相談支援を中心に法人全体で行う困りごとへの相談を業務として行いました。町内に相談支援体制が整ってきていることから必要に応じて専門相談窓口への対応も行いました。

長期成果

問題解決へ向け、自ら行動が起こせるようになる。

困ったときに気軽に相談できる場や機会、日頃からの関係づくり。

②高齢者・障害者に対する地域生活支援サービス事業

タイムケア事業 (自主事業)

直接の成果

スタッフが生活の援助を始める。

【活動概要】

介護保険対象者および障害福祉サービス対象者に対し、制度のルール等の理由で対応できない部分に柔軟に対応する事業です。

短期成果

生活の連続性が保たれたり、やりたいことができ始める。

【活動実績・得られた成果】

必要に応じ、既存の福祉制度で対応できないケースについて臨機応変に対応を行いました。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

分かち合い事業 (自主事業)

直接の成果

住民スタッフが生活のお手伝いを始める。

【活動概要】

介護以外のちょっとしたお手伝いについて、住民同士の助け合いで柔軟に対応する事業です。

短期成果

生活の中の困り事が改善し始める。

【活動実績・得られた成果】

法人内の事業効率化として、分かち合い事業でひるじろう（就労継続支援B型）に社用車の洗車、花壇整備、草取りなどの業務の依頼を行い、ひるじろうの利用者さんへの工賃として協力費をお支払いしました。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

③相談ケアマネジメント事業

ゆめじろう居宅介護支援事業所

(介護保険居宅介護支援事業)

活動の想い

見慣れた風景や環境の中、その人らしい暮らしができることを応援していきたい

対象

町内在住(近隣町を含む)
高齢者と家族

直接(～1か月)の結果

生活や介護に関する困りごとや、暮らしにくさに対して、サービスの利用や暮らし方について相談できる。

短期(～3か月)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関との関係づくりが始まる。

中期(～1年)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関とつながっている。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活が支援を受けながら継続し、ひとりではないと感じながら生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。



ピースではなくカニのポーズでパチリ!

●居宅介護支援実績 1328人(要介護915人 要支援等413人)

【担当責任者】 西川百合

【活動概要】

介護を必要とする方が、自宅で適切に介護保険サービス利用ができるように、心身の状況や生活環境、本人・家族の希望に寄り添い、その人らしい生活ができるようにケアプランの作成やサービス調整を行います。暮らしにくさなどの相談の場合には、介護保険制度や他機関の案内や提案を行っています。

【2024年度活動目標】

特定事業所加算算定継続による収益の確保を図りつつ、ゆめじろうと繋がる人の暮らしを応援していきます。引き続き、週1回の会議の開催や、月1回の障害部門相談員との事例検討会にて、介護保険だけではない制度の理解を深め、ひとりひとりに寄り添った支援を、今までの視点に+αできるように援助の引き出しを増やし、対応力アップを目指します。新規利用者の受入もしていきます。

【活動内容・得られた成果】

ケアマネジャー自身の生活の変化に伴い、これまでも有給休暇や介護休暇の取得、在宅ワークやフレックス勤務なども導入してきたことで、ケアマネジャー同士の支え合いの中で業務が滞ることなくサービスが提供できたことで、特定事業所加算の算定継続ができた一年でした。

また、武豊町地域包括ケアシステム推進会議や、ケアマネのつどい運営委員会、ケアプラン検討委員会への参加など、武豊町の福祉行政、他機関との協働にも努め、地域に根差した活動が年間を通してできました。



「困った時のゆめじろうつながり」が、安心して暮らしを応援します。

ゆめじろう相談支援事業所

（障害者総合支援法）知多南部基幹相談支援センター（基幹）、一般相談支援事業、
特定相談支援事業、（児童福祉法）障害児相談支援事業

R4.1~



基幹相談支援センターとして相談だけでなく地域づくりも行います！

活動の想い

障害のある人と家族が安心して暮らせる社会や地域を作りたい！

対象

武豊町・美浜町・南知多町
在住の障害者と家族

活動内容

障害児・者の生活・サービスに関する相談援助。協議会の運営。

直接の結果（～1か月）

相談を行い、必要な情報が得られたり、サービス利用が始まる。

短期の成果（～3か月）

必要に応じ相談ができ、生活が安定しはじめる。

中期期の成果（～1年）

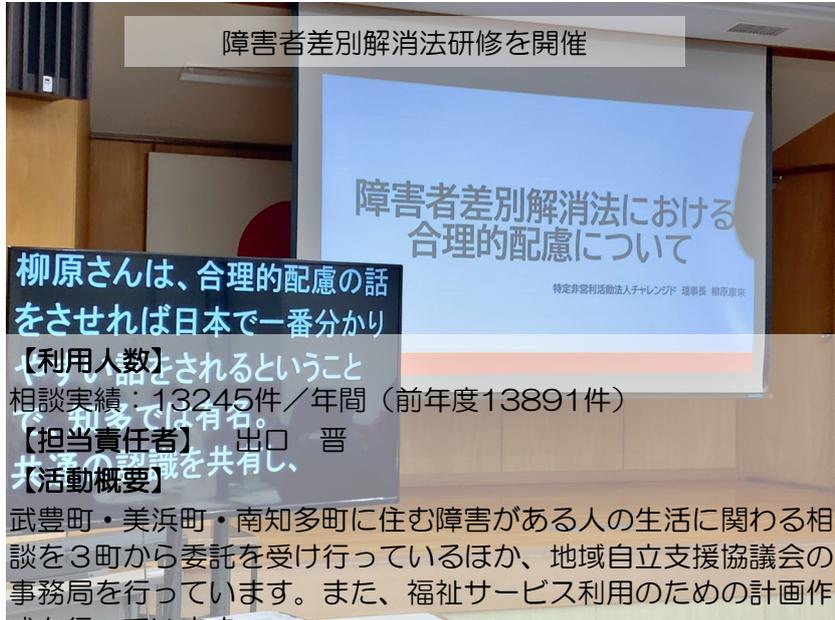
新たな課題が出てきても、相談することで安心できる。

長期（～3年）の成果

住民の障害理解が深まり、サービス以外の資源を活用しながら自分らしい生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【2024年度の目標】

わっばると共同体制の協定を結び、機能強化型1事業所として事業収入を確保するだけでなく協力して相談支援体制強化を図ります。また、相談支援事業所連絡会を活用し新規事業者の参入や相談支援専門員の相談技術向上を行っていきます。自立支援協議会の各町部会にて個別避難計画の推進他、来る南海トラフ地震への備えを進めていきます。

【活動実績・得られた成果】

基幹相談支援センター3年目。わっばると共同体制の協定を結び、機能強化型1事業所として事業収入を確保するだけでなく協力して相談支援体制強化を図った他、研修を受講し精神障害者支援体制加算の取得をしました。結果として、基幹相談支援センターの委託料と計画相談の事業収入で人材確保を行うに十分な収益を上げることができました。一方で知多南部地域自立支援協議会の部会やワーキンググループの運営業務や新規相談ケースの対応に忙殺されるという相談スタッフの過剰労働は引き続きの課題となりました。改善策として知多南部相談支援事業所連絡会を中心に呼びかけをし相談支援事業への参入の呼びかけや、相談支援専門員の育成に努めました。また、町内で相談支援事業所の立ち上げを希望する人材をワーカーとして受け入れ育成に努めましたが、結果的に実を結ぶまでの成果は得られませんでした。多くの地域課題に対して限られた人材と時間で確実な成果を上げていくことが迫られる中、相談業務の整理と効率化他、知多南部自立支援協議会の運営についても見直しを行っていく時期に来ています。

④ホームヘルプ事業

ゆめじろう訪問介護事業所

(介護保険訪問介護事業、介護予防訪問介護事業)

活動の想い

住み慣れた町で暮らし続けることを応援したい!

対象

町内在住高齢者

活動内容

介護保険サービスとして高齢者の生活を支えるための訪問支援。

直接(~1ヶ月)の結果

ヘルパーが家庭に入り生活の援助を始める。新たな困りごとや課題が明らかになる。

短期(~3か月)の成果

ヘルパーの援助を受けながら生活をする。

中期(~1年)の成果

出来ることは自分で行い、出来ないことはヘルパーと一緒にしながら生活の質が向上する。

長期(~3年)の成果

自分らしい生活がヘルパーの援助を受けながら継続し、生きがいや目標が見つかる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



利用者さんと一緒に楽しい食事作り

【担当責任者】 粉山敬子

【事業概要】

利用者さんの日常生活をお手伝いさせていただいています。住み慣れた自分の家(地域)で過ごしたいという利用者さんに寄り添い、生きていて良かったと思ってもらえる支援を心がけています。

【2024年度の目標】

新規受け入れを継続して行い、必要時、迅速な対応に努めます。人材確保の為、働きやすい環境づくりを進めていきます。質の高いサービスを提供できるよう、ヘルパー内研修(勉強会)の充実を図ります。また、介護員のスキルアップの為、外部研修への積極的な参加体制を整えていきます。

【活動実績・得られた成果】

新規の受け入れ継続して行ってます(合計14名)総合事業の訪問Aの受け入れも依頼があれば引き受けています。

今年度は長年利用されていた方が亡くなる事が多い年でした。(合計10名)入所も増えた事も若干減収となってしまいました。

昨年11月より登録ヘルパーが1名増えました。月1回のサービス検討会では、毎回出席率100%で活発な意見交換、勉強会、情報共有をしコミュニケーションを図る事もできました。

外部研修への参加についても介護員が1人2回以上、受講できました。他の介護員の前での発表の場も設けてます。より良い介護技術を習得する為に介護技術の外部研修も今年度は全員が参加する事ができました。介護員同士での介護技術の練習の場も増やしました。今後も介護員全員のスキルアップを図る為、常に向上心を持ち続け、質の高い訪問介護サービスを提供していきたいと思えます。



その人らしく寄り添いながら丁寧な介護!

ゆめじろう居宅介護等事業所

(障害者総合支援法居宅介護等事業)



そのサポートをマンツーマンで支えます！

活動の想い

障害のある人の社会参加や挑戦を寄り添って応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)障害者

活動内容

自宅へヘルパーが訪問し、障害児・者の地域での生活を支えると同時に生活課題を明確にして課題解決のための支援を行う。

直接の結果

ヘルパーが家庭で生活の支援をしたり、社会参加支援を始める。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーが家庭で、日々の生活支援に加え、課題解決のための支援を受け始める。

中期(～1年)の成果

継続した支援を受け続けていける。ヘルパーの支援を受けながら課題解決力・生活力が付く。

長期(～3年)の成果

自ら課題解決に向かっていく力が付く。また、必要とする支援を発信できるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【根拠事業】居宅介護等事業、行動援護、移動支援

【担当責任者】山本浩人

【活動概要】

個人のニーズに合わせ、マンツーマン対応で障害のある方の日常生活・余暇活動を支援しています。

【2024年度活動目標】

- ・新たな人材を獲得するための手段を、検討して実行に移します。SNSの活用なども検討します。
- ・移動支援グループ支援型を引き続き行います。グループホーム利用者の休日支援(ヘルパーサービス利用)については、グループホーム部署とも連携します。
- ・支援の質を向上させるため、登録ヘルパーには外部研修への積極的な参加をしてもらいます。

【活動内容・得られた成果】・人材が増えてこない中で、いかにサービスを届けるかが最大の課題でした。優先順位を考え、生活支援(食事や入浴や通院など)を最優先にして調整を行っていきまされたので、その部分は概ね利用希望に対し、ヘルパーの派遣が出来ました。ただ、土日祝日部分の日中余暇支援については、活動できるヘルパーの人数は限られており、なかなかサービスが届けられない状況でした。

・移動支援グループ支援型については、昨年度から取り組み始め、少しずつではありますが実績は上がってきています。引き続きいろいろな組み合わせを考え、新規利用者さんへの提案も含め、取り組んでいきます。

・ヘルパーの支援の質向上のため、外部研修も含め学びの機会を探し参加することについては、十分出来たとは言えませんので、今後も情報を獲得するためのアンテナを高くしていきます。そして積極的に参加して学んでいきます。

⑤ テイサービス事業

ひるじろう (生活介護)

活動の想い

どんなに重い障害があっても、その人らしい自己実現ができる活動や居場所が必要だ！

対象

町内在住(近隣町を含む)の重度障害者

活動内容

重度障害者に対し、それぞれの能力や意向に応じた日中の活動と居場所の提供を行う。

直接の結果

送迎等の支援を受けながら自分のペースでひるじろうに通い、活動に参加する。家族以外の人とのかかわりが始まる

短期(～3か月)の成果

活動に参加するうちに自分の強み弱みが分かってくる。得意な活動にはやりがいがあるようになる。

中期(～1年)の成果

得意な活動に磨きをかけ、やりがいを持って取り組めるだけでなく、息抜きもできるようになる。

長期(～3年)の成果

やりがいをもって行える活動を共に行う仲間ができひるじろうが大切な居場所となる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。



定員に空きがある状況が続いており、利用者からも話し相手が減ったことで退屈を感じることもあるといった発言が出ています。事業所内の雰囲気を変える意味でも収入面からも外部に積極的なPR活動をしていきます。

・休止していた外での活動機会の増加

利用者から「外に出たい」「〇〇に行きたい」という声が聞こえてくるようになりました。年3回行っているお楽しみ会で外出イベントを準備する、日ごろの活動でウォーキングや季節行事を積極的に企画していきます。

【活動内容・得られた成果】

利用者さんから、外出したいと希望が多く出ていたので、常滑イオンや外食など2回実施することができました。今回はアンケートを取り、どこへ行きたいか希望を取り、希望に合わせて外出することにしました。利用者さんの食べたいものがバラバラなので、食べたいものを選んでもらい、楽しく外出することができました。お出かけ後も、「～がおいしかった!」「次はどこに行きたいかな」と話が弾んでいました。

今まで行っていた、内職のチケット作業が終了しました。新たに、ゴム製品のバリ取りの内職作業を始めました。いろいろな種類のゴムがあるので、これはとりやすい!これは少し硬めだね!と利用者さん同士も話しながら新鮮で楽しそうに作業しています。

さをり織りの作品を金シャチ横丁での金シャチお宝博(3/28～9/8)にも出店することになりました



一緒にモチモチ!一緒に成長!



「おいしなだよ！」

世界で一番うれしい言葉！

ひるじろう (就労継続支援B型)

活動の想い

障害のある人の「仕事がしたい」「社会の役に立ちたい」という思いを応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)の仕事をしたい障害者。仕事ができる可能性があるのに十分に力を発揮できていない障害者。

活動内容

障害者に対し、仕事を通じて社会参加・社会貢献をする場の提供を行うと共に、それに対し工賃を支払う。

直接の結果

ひるじろうへ通い、コロッケ作り・販売、整備事業など自分に合った仕事に取り組む。

短期(~3か月)の成果

ひるじろうに慣れ、仕事をしながらの生活リズムができる。

中期(~1年)の成果

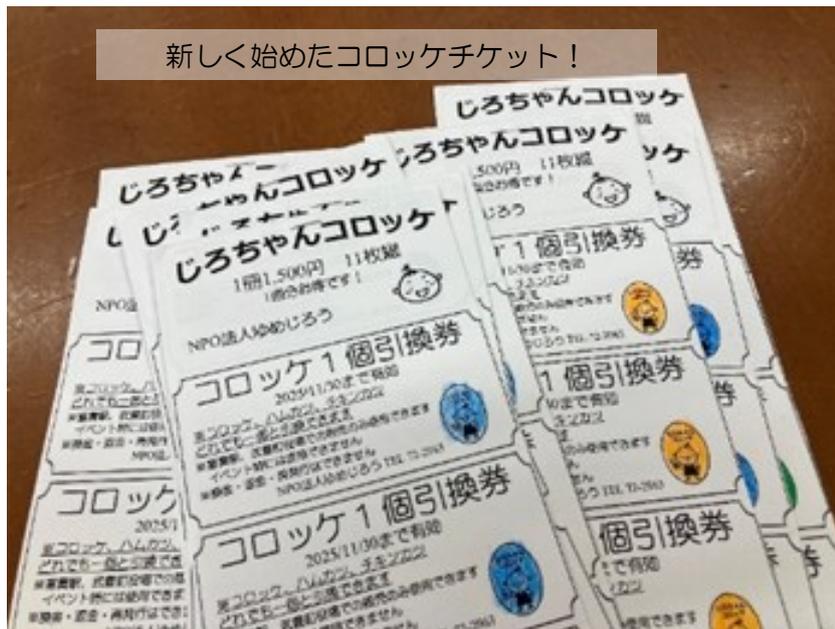
お金に関心が持てるようになる。目標工賃23,000円/月の達成

長期(~3年)の成果

工賃だけでなく、仕事そのものにもやりがいや誇りが持てるようになる。目標工賃25,000円/月の達成

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



新しく始めたコロッケチケット！

【利用定員】 10人 平均利用人数 4.7人/日

【担当責任者】 楯貫浩美

【活動概要】

町内及び近隣の障害者に対し、日中の活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現の支援を行う。

【2024年度の目標】

ひとりひとりの強みを引き出し活かせる活動の創出。

利用者増に向けてチラシ作りと関係機関への周知。

安心素材でつくる製品の品質維持。

【活動実績・得られた成果】

工賃向上のための個別研修に参加し、新たな原価計算表や製造工程表等の活用を行いました。

2025年度に利用者1名増員のためよりいっそうの利益が必要で、新たな仕事としてゴム製品のバリ取りの内職の取り組みを始めました。厨房内での作業が苦手な利用者も積極的に内職に取り組み、以前より作業時間が増え工賃が増えました。

コロッケの売上アップのため、毎週木曜日にゆめじろう駐車場で販売を始めました。またコロッケチケット(10個につき1個お得になる)を初めて導入しお客様に喜んでいただいています。

こじろう (移動支援事業を活用した放課後支援)

活動の想い

障害のある子どもたちの地域の中で健やかな成長と家族を応援したい!

対象

町内在住の障害児(家族)

活動内容

障害児の放課後と長期休暇の活動と居場所の提供。

直接の結果

子: 場所、人に慣れ落ち着いて過ごすことができる。
親: 自分の時間が持てることにより余裕ができる。子の家とは違う側面を知る。

短期(～3か月)の成果

子: こじろうに行くことが楽しみになる。
親: 安心して送り出すことができるようになる。

中期(～1年)の成果

子: 好き嫌いがはっきりして自分から活動を選択し参加できるようになる。
親: スタッフと信頼関係ができる。

長期(～3年)の成果

集団で過ごし、社会経験を積み上げることにより必要なルールが身に付きよい人間関係が保てるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【利用定員】 5名

【担当責任者】 濱本晃宜

【活動概要】 移動支援事業を活用し実施

障害のある子どもたちが放課後や長期休暇を安全に楽しく過ごすための場所です。子どもたちが主体的に活動できることを目標にしています。

【2024年度の目標】

24年度で17年続いたこじろうは幕を閉じます。最後の一年も、これまで通りひとり一人に合わせた活動・支援をしていきます。次年度以降、他の放課後等デイサービスをご利用予定の方については、ご本人が迷うことが無いように引継ぎ等もしていきたいと思っています。

【活動実績・得られた成果】

2024年度は5人でこじろうをスタートしました。昨年に引き続き、火・木・金の週3日で1日あたり2名から3名での活動でした。2022年度より移動支援に移行し、1対1または2体1のグループ支援を行いました。行きたい場所やしたい活動等をご本人と直接やり取りまたはご本人からの希望を聞き、可能なことは実行していくことができました。行き先までの交通手段やどのような準備が必要なのかをスタッフ同士で話し合ったり、本人に相談したりとスタッフと子どもたち全員で事前準備を行いました。2024年度も昨年に引き続き、バスや電車に乗ってお出かけをしたり、ボランティア活動を行ったりとスタッフと利用者さん共に貴重な時間を過ごし、様々な活動に取り組むことができました。

こじろうも 地域貢献 ボランティア活動やっています!

⑥福祉移送ボランティア事業

- 【根拠事業】 自主事業 【担当責任者】 山本浩人
【事業概要】 緊急的に必要または、やむを得ない場合の車による移送。
【事業実績】 緊急やむを得ない場合において法人判断で無償で実施しました。

⑦次世代育成事業（子育て支援事業）

既存の子育て支援施策で仕組みが整ってきており、ゆめじろうとしては未実施。

⑧高齢者障害者に対する社会参加促進事業

喫茶「ゆめひろば」

直接の成果

町民がゆめひろばを利用し、食事やお茶を飲みながら話をする。



長期成果

町民会館に、食事をしたりお茶を飲みながら仲間との交流や出会いの場が確保される。

ワンディシェフなので毎日食べても飽きない旬の物を使って提供しています。

- 【根拠事業】 自主事業
【担当責任者】 木村智子
【事業概要】

SNS等を使って新規のお客様を呼び込みたい。

土日営業する日を大々的にアピールする。

【2024年度の目標】

引き続きコロナウィルス感染症の状況を見極めつつ安全な運営に心がけます。

【活動実績・得られた成果】

イベントに向けての特別メニューの考案をしました。

文化祭で特別メニューの提供をしました。

産業祭りで特別メニューの提供をしました。

春の音楽祭で特別メニューの提供をしました。

物価高騰により、ランチ、ドリンク、カレーの価格の見直しを行い価格改定を行いました。

来客数も徐々に回復しています。

就労継続支援B

P12を参照 ひるじろうの活動の中で紹介。

フリースペース事業

【事業概要】

事業所のいろいろなスペースを利用して、地域の方が立ち寄りたり、ボランティアとして参加いただいたりする事業を提供しています。「こんな事ができるといいなあ。」や「こんなことで困っている。」「このくらいの手伝いはできるわよ。」などの声を大切にいろいろな活動を少しずつ行っています。

ゆめじろう茶屋 自主事業

活動の想い

地域で孤立することがないように住民同士のつながりを大切にする居場所を作りたい！

対象
町民

活動内容

地域住民が気軽に集える場所と活動の提供をする。

直接の結果

地域住民が日常的に茶屋に集い活動に参加する。

短期の成果

茶屋に集う者同士の交流が生まれ、新たな関係ができる。

長期の成果

茶屋を活用して地域住民の支えあいの活動が展開される。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



○事業実績 延べ134人

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 西川百合

【事業概要】

年齢・性別・国籍問わず気軽に参加しています。

情報交換や物々交換、新しいつながりなど「つどい・つながる」場所です。

【2024年度の目標】

固定化された方のみならず、いろんな人が立ち寄りやすい場をもち、地域の輪を広げていきたい。介護や暮らし辛さなどの身近な問題に対してどう向き合ったらいいのか、いろんな人からの知恵の出し合いができる場所作りをしていきます。

【活動実績・得られた成果】

概ね月2回、第1、第3月曜日に三郎宅にて、地域の人が自由に集まれるサロンとして開催しています。地域の中の情報交換や暮らしの中の困りごとや悩みごとに共感や解決方法などを参加者同士の会話の中からピックアップし、参加者それぞれの生活の役立ち情報の交換の場ともなっています。年齢的な心配ごと（認知症など）に対して講演会の案内なども行い、情報を得ることで疾患への理解や予防に取り組むこともできました。

⑨地域福祉啓発・研修事業

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

高齢者福祉および障害者福祉にかかわらず地域福祉に関わる活動やイベント等を開催しています。フードバンクちたの他、ゆめじろうくん（着ぐるみ）やコロツケカーによる地域イベントへの参加などを行います。

ゆめじろうくん・コロツケカーの出動（自主事業）

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 楯貫浩美

【事業概要】

啓発活動の一環としてキッチンカーの出動やゆめじろうくんがイベントに参加したりしています。

【2023年度の目標】

【活動目標】

地域啓発活動についてはコロナ禍以前に実施していた内容を再開するのではなく、社会の変化に合わせ必要なものとそうでないもの、形を変えて行っていく必要があるものなど内容の再検討を行う。そのうえで現在の団体の体力に合わせ優先順位を付けたうえで実施していく。

【活動内容・得られた成果】

本年度も13回のコロツケカーの出動がありました。昨年度に続き富貴祭礼や長尾祭礼（武雄神社にて）への出店、ゆめプラ芝生フェスタ、大足区祭礼、ゆめじろうグループホームのある緑区フェスタ、えびせんパークで開催したおたから博（初）、ひだまりの郷（初）わっぱ祭り、福祉ふれあい広場、モルック大会など地域を盛り上げるためのイベントに駆け付けました。知多南部の福祉を盛り上げるため企画されたおたから博（えびせんパーク会場）にはゆめじろう君も駆けつけ、ぺったんと共演を果たしました。

年度途中より多くの地域のニーズにこたえるため、スタッフがイベントに協力しやすい仕組みづくりも行ったことで多くのイベントに協力することができました。



ぺったんと会場を盛り上げるゆめじろう君

フードバンクプロジェクト（自主事業）

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 地域啓発委員会

【事業概要】

セカンドハーベスト名古屋、サポートちた、日本福祉大学、常滑市社会福祉協議会と協力し、大規模ショッピングセンターや食品会社などからまだ食べられるのに捨てられてしまう食品をもらい受け、生活困窮者など必要としている人たちに届ける活動です。

【2024年度の目標】

食料品を必要とする家族・個人・団体への食品支援を継続的に行いつつ支援関係の維持を行っていく。また、フードバンクの仕組みが維持していけるよ

う、分配品の余りをスタッフの協力購入で資金の捻出をしつつセカンドハーベスト名古屋の活動費に寄付金と食品の受け取りに係る作業費の委託（ひるじろう生活介護の工賃）へ当てつつ維持を行っていく。

【事業内容・得られた成果】

本年度も食糧支援を必要とする家族や団体に対して週に1回（木曜日）ペースで食糧支援を行いました。また、年に一回のカーブスフードドライブからの食品の分配と明治製菓からのお菓子の提供を受け地域で子どもを対象とした活動を実施している団体へお菓子の提供を行いました。



カーブス・ドン・キホーテ武豊の皆さんと

⑩短期介護事業（ショートステイ）事業

【根拠事業】 自主事業・地域生活支援拠点（体験的宿泊・緊急一時的宿泊）

【担当責任者】 山本浩人

【事業概要】

本人及び家族の緊急時の宿泊支援及び将来へ向けての宿泊体験の場と機会の提供を行う。

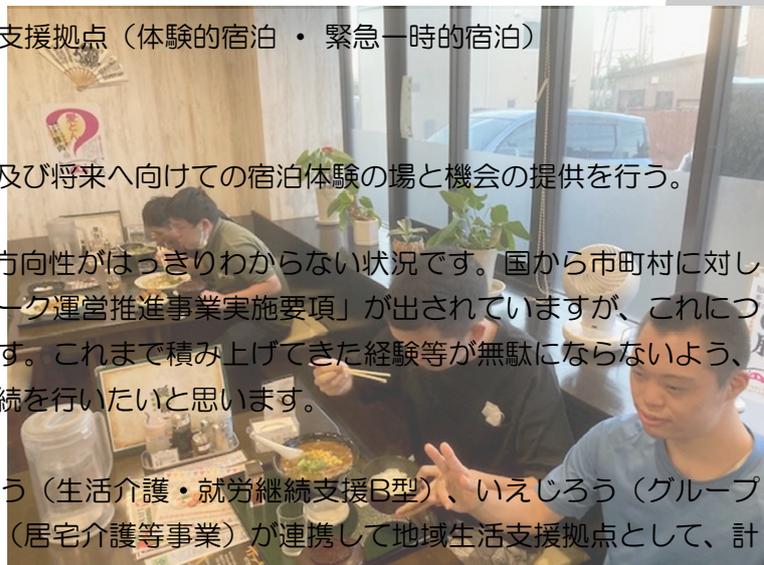
【2024年度の目標】

4月からの法改正により、今後の方向性ははっきりわからない状況です。国から市町村に対し「地域生活支援拠点等・ネットワーク運営推進事業実施要項」が出されていますが、これについて担当課に内容の確認を行います。これまで積み上げてきた経験等が無駄にならないよう、関係各所と協力しながら事業の継続を行いたいと思います。

【活動内容・得られた成果】

基幹相談支援センター、ひるじろう（生活介護・就労継続支援B型）、いえじろう（グループホーム）、地域生活支援センター（居宅介護等事業）が連携して地域生活支援拠点として、計画的に実施しました。

今年度より「地域生活支援拠点・ネットワーク運営推進事業」と事業の名称が変わりました。体験的宿泊事業と緊急一時的宿泊事業があり、2024年度の実績は体験的宿泊が20件、緊急一時的宿泊は1件でした。2023年度に比べ利用人数は2倍以上となり、今後も新規利用者は増える見込みです。



「緊急時に備える」
「将来へ向けて自分の生活スタイルを検討する」

⑪障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

居住サポートいえじろう（共同生活援助）

活動の想い

障害のある人の親から離れて暮らす挑戦を応援したい！

対象

町内在住の障害者

活動内容

障害者のための家庭的で社会とのつながりのある住まいの提供。

直接の結果

グループホームでの生活を始めるとともに地域行事への参加、ボランティアの方との交流会に参加し始める。

短期（～3か月）の成果

グループホームでの生活に慣れ、地域の方やボランティアの方との交流にも慣れる。

中期（～1年）の成果

グループホームを利用する日が増え、ボランティアの方と一緒に過ごすことができる。

長期（～3年）の成果

安定した生活をグループホームで送る。地域の方に存在を知ってもらう。ボランティアの方と一緒に外出ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

緑区フェスタにゆめじろう君とみんなで参加！



【根拠事業】 共同生活援助 定員8人

【担当責任者】 出口佳江

【活動概要】

利用者さんが「ただいま」と安心して帰宅できるお家です。障害のある方が地域の中で自分らしく生活が送られるようサポートしています。

【2024年度の目標】

- ・引き続き8人のメンバーが自分で出来ることは自分でやり、自立して生活が出来るように支えていきます。
- ・季節の変化を大事にし、ピクニックや花見など、週末の余暇活動を充実させます。地域のイベントや行事の参加をしていきたいと思えます。
- ・引き続き体験的宿泊の受け入れをしてきます。
- ・地域との連携を目的に、行政・地域との協力を得ながら地域連携推進会議を開催します。

【活動内容・得られた成果】

ヘルパー事業所と連携し休日のグループ支援を充実させました。個別ではなく2～3人で外出を楽しむことが出来ました。電車を使って社会参加をしました。グループホーム全体での外出も大切にし、カラオケや、お弁当を持ってピクニックにも出かけました。地域のイベントに参加をしました。人手不足が大課題でしたが夜勤者・夕方支援者希望者が少しずつ仲間入りしています。定年退職後のまだまだお元気で生活の知恵や経験がたくさんあり、頼もしい方々ばかりです。

2024年度内に地域連携推進会議を開催する予定でしたが出来ませんでした。今年度から義務化になるので地域の方や利用者さん家族との連携やホームをよく知ってもらえるように働きかけたいと思えます。

地域生活支援拠点の利用は定期的に行いグループホームで生活することのイメージを持って頂きました。緊急一時的宿泊も行いました。



「ただいま」と安心して帰る場所。ホッと出来る居場所。「明日もがんばろう」と思える場所。